

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	山本 桂子
	主査	教 授 松野 吉宏	
審査担当者	副査	教 授 浅香 正博	
	副査	教 授 藤堂 省	
	副査	教 授 山本 有平	
	副査	准教授 飛驒 一利	

### 学 位 論 文 題 名

#### *Helicobacter pylori* 除菌後に発見された早期胃癌の臨床病理学的検討

申請者は主に免疫組織化学の手法を用い、*H. pylori* 除菌成功後に発見された胃癌と、除菌がなされず感染継続中に発見された胃癌を、臨床病理学的に比較検討し、除菌が胃癌発育に与える影響につき考察した。除菌群では有意に表面陥凹型が多く、腫瘍径や Ki-67 index は小さかったことより、除菌によって増殖能が抑制される可能性が考えられた。粘液形質に関してはコントロール群に比べ除菌群で胃型優位のものが多かった。一般に、胃癌は胃型の形質を保持したまま発生し、成長するにつれ腸型化していくとされる。本研究はヒトにおける除菌後胃癌の粘液形質に関する初めての報告であり、除菌治療により胃癌発育過程における腸型化が抑制されている可能性が考えられた。

審査会では、学位論文内容の発表後、副査の山本有平教授から、*H. pylori* 以外の腸型化に関わる因子の有無、腫瘍の悪性度と粘液形質の関係、副査の飛驒一利准教授からは見落とし症例の除外など対象の妥当性、腸型化と Ki67 index の関係、副査の藤堂省教授からは感染率と発癌率の相関や、異時性多発癌の特徴、主査の松野吉宏教授からは、今回の結果からは胃癌予後改善までは言及できないことの指摘、*H. pylori* 陰性など将来的に問題となる胃癌に対する研究の展望、除菌群と非除菌群における検査頻度など背景の一致性についての質問があった。副査の浅香正博教授からは粘液形質に対する欧米の反応、臨床での除菌後症例の扱い方、今後はどのようにこの研究を広げていくかなどの質問があった。申請者は得られた研究データや文献的知見を引用し、これらの問いに概ね妥当に答えた。

この研究は *H. pylori* 除菌後に発生する胃癌について臨床病理学的に検討した最初の論文であり、胃の発癌に対する除菌の影響を明らかにした点で今後の胃癌撲滅への貢献が期待される。審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。